2 重心心身障害児・者におけるてんかん発作出現前後の日常活動の変化
重症心身障害児・者入院施設における観察

亀田 一博・宮沢 潤一・西原 宏子
下条 智子・小西 徹
長岡療育園

当園入所児・者におけるてんかん発作を有する児の，発作前後の日常生活の変化について検討したので，報告する．

【調査・方法】

当園入所者134例中，てんかんを有する84例の調査を行い，6ヶ月間で1411回の発作を観察した．これらの発作と日常生活の変化を調査した．

今回の調査では，発作前または後に，日常生活に変化の見られたか，まったく見られなかった症例のうち，発作頻度が月に一回以上の40症例を対象に行った．

発作頻度が低い症例は，発作観察回数が少なく，日常生活の変化の判定が不完全な症例が多いため，除外した．対象となった40例は，発作型別に，部分発作症例24例，全般発作症例6例，混合・分類不能発作症例10例に分類された．

【発作前の変化と発作型との関連】

発作前の変化では，多動が5例と最も多く，以下，表情が険しくなる，動きの緩慢，発声が各3例，にやつき，活動性低下が各2例，発汗が1例であった．24例では，変化は認められなかった(症状の重複症例を含みます)．

全体に，脳の興奮を示唆する，活動性の亢進の変化が多い印象を受けた．

発作型分類では，全般発作症例6例では，全例変化が認められなかった．部分発作症例24例では12例で，混合・分類不能発作症例1では，10例中4例で変化が認められた．

症状と発作型の分類には，有意な関連性は認められなかった．

【発作後の変化と発作型との関連】

発作後の症状の変化では，眠る症例が14例と最も多く，以下，活動性の低下が4例，にやつき，食欲低下，喘鳴，24時間以上の発熱が各2例と続いた．20例では，変化は認められなかった．発作前の症状とは対照的に，脳の抑制を示唆する，活動性低下の変化が多い印象を受けた．

発作型分類では，部分発作症例24例中10例で，全般発作6例中4例で，混合・分類不能発作10例中6例で，変化がみられた．

こちらも，症状の変化と発作型に，有意な関連性は認められなかった．

【まとめ】

重症心身障害児者のてんかん発作における，発作前・後の日常生活の変化について検討した．

調査対象の40例中16例で発作前に変化が見られたが，全般発作では，全例，変化が認められなかった．主に活動性亢進を示唆するものが多かった．

40例中20例で発作後に変化が見られた．発作後の変化は，てんかん発作型とは明らかな関連は認められなかった．主に活動性抑制を示唆するものが多かった．

3 複雑部分発作を呈した後頭葉てんかんの1例

天金 秀樹・笹川 睦男・田中 弘
国立療養所西新潟中央病院精神科

後頭葉てんかんは，まれである．Gibbsらによれば部分てんかんの8％程度だといわれている．主症状は他覚的でなく，自覚的な視覚症状で，発作の伝播経路が複雑であり，症状が多様なことから臨床データが側頭葉てんかんに比べて蓄積されていない．

また頭皮上脳波では，側頭葉だけに異常波を示すことも多く，診断の助けにはならない．むしろ誤診の原因になっているとさえ言われている．今回，私たちは臨床症状や脳波とMEG（脳磁図）の結果から後頭葉てんかんと診断した1例を経験したのでここに報告する．症例は25歳男性，家族歴，既往歴ともに特記すべき事なし．10歳時，テレビを見ていて目がちかちかする，黄色の光が見えるなど視覚症状で始まり，立ち上がり急に動作が停止し，意識喪失する発作が出現．その3ヵ月後全身痙攣を認め近医で，てんかんと診断された．その後コンプライアンス不良だったが発作はコン